

# 元気モリモリ通信

京都院  
KYOTO PARTY  
地 域 政 党

京都市会議員 森かれん 市政報告 vol.6

2018年8月31日発行

発行：京都市会議員 森かれん 事務所  
〒602-8384 京都市上京区紙屋川町1038-22  
TEL:075-366-6341 FAX:075-366-6342

窓口にきた人たちだけに、  
役所の支援が必要なのか？

市民に繋がる、市民が頼れる行政支援の情報発信を

行政支援が必要なのに、何らかの事情で支援の手が差し伸べられていない人たちがいます。それは本人自身が「行政支援が必要でない」と思い込んでいたり、あるいは経験不足・知識不足によって、行政や社会との繋がりを持てないなど様々な理由で、行政支援の入り口には現れず、セーフティーネットから漏れてしまうのです。

その一つに「母子手帳未交付状態の出産」があります。人に妊娠したことを告げることができず、一度も区役所に行かないまま出産してしまったということが、京都市内でも年に数件発生しています。つまり、危険な状態で妊婦が病院に運ばれて初めて、行政支援に結び付く人たちがいます。妊娠・出産についての行政支援は「母子手帳をもらいに来る」ことを前提に組まれています。そのために、産むか否かで悩む人たちが発信するSOSに気づけない事例が発生しているのです。

インターネットやSNSが発達している昨今、手元にあるパソコンやスマートフォンで必要な情報が取りに行けます。しかし、行政の情報発信は未だに区役所にチラシを置く、市の施設にポスターを掲示することが主流であり、ネットでの情報発信は後手に回っています。これで支援を求める人々に必要な情報が届いているのでしょうか？インターネット広告や市役所ホームページ広報の発信宣伝の強化など、これからは窓口に来られる市民だけではなく、市民のSOSを拾い上げる取り組みが重要です。あるいは案内チラシを市の関連施設だけでなくコンビニなどにも置くなど、発想の転換も求められます。

行政は「なぜ、私たち（役所）を頼ってこなかったの？」というスタンスではなく「頼ってみませんか？」と自らが支援を使ってもらえるような情報発信をすることが必要です。

30年先の京都を見据えて――

京都市会議員 森かれん

繋がる、頼れる、行政支援で  
命を健やかに育む街へ



# 京都市会でモリモリ質疑！

# 元気モリモリ! 提案型の代表質問



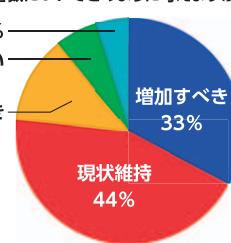
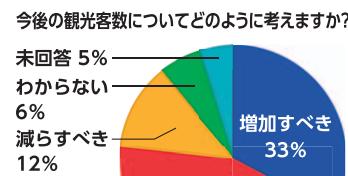
2018年2月23日 代表質問にて指摘・提案

## 京都党独自の市民アンケートをもとに質疑 観光客に対する本音と今後の 京都市の対策

昨今の京都市内の観光客増は「観光客が多すぎる」という不満になっていると感じます。そこで、地域政党京都党は市民の「観光客」に対する率直な御意見を伺うため独自に「観光客に対する市民意識調査」を実施しました。本調査は、1月20日から2月5日まで17日間かけて684人の方にご協力いただきました。この場をお借りし、ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

「観光客が増えていることについてはどのように感じているか」という点については全体の62%の方が、「とても良い」「良い」とご回答いただいたものの、「今後も観光客は増加させるべきだと思いますか?」という設問については、「現状維持」と答えた方が44%と一番多く、「減らすべき」が12%であり「もうこれ以上は増えてほしくない」という方が半分を占める「不満」と感じる項目については、下記表からも「マナーに関すること」と「バス車内混雑」、「道路渋滞」の3つに集中していることがアンケートから判明しました。

そこで私たちは、①市民の足を阻害させないための「市バスにおける生活路線と観光路線の棲み分け」②宿泊者のマナーに関するガイドラインを作成し、事業者が徹底的に宿泊者に対してマナーを守ってもらうよう指導する「宿泊者のマナー啓発」の2点を市長に提案しました。日常生活を行う市民の負担軽減をするための施策を、選択と集中で行うことが引き続き肝要です。



観光客増に対して「不満」と感じる項目を選んでください(複数回答)

観光客のマナー違反	434
道路渋滞	371
バス車内の混雑	345
キャリーバッグ等でのバス乗車	325
宿泊者のマナー違反	325

## こども・若者ケアラー支援

様々な事情により家族のケア（介護を含む）をする、成人に満たない子どもや若者は「こども・若者ケアラー」と呼ばれ、家庭内でお手伝いの範疇を越える役割を担っています。例えば、ひとり親家庭において、その親が病気になった場合、親の病院手続きから家事全般を一手に高校生の子どもが引き受けるといったケースなどがまさに子どもケアラーです。

ライフステージの中で「介護」が先に発生した場合、その介護がいつまで続くかがわからないため、就職・結婚・学業・将来の年金権や収入など今後の暮らしや人生に見通しを持てません。学業や就労の未達状態が続ければ、将来的には彼からの生涯賃金の低下につながります。しかも、彼らは大人とは違い行政などに関する情報が圧倒的に不足しているため、支援に繋がるのが難しく、その困難が可視化されていません。

この状態を放置することは、若者の健全な育成を損なうだけでなく、生涯賃金の低下を招き最後に社会的損失が大きいため、①京都市においても子ども・若者ケアラーの実態調査の実施し、ニーズを顕在化させること②子ども・若者ケアラーと密接する学校現場において、その存在の認知を広め、必要な行政サービスなどへ繋げる役割を担うべきということを市長に提案しました。

## 京都市政・課題問題てんこ盛り

# 森の眼

### 知られざる 「京町家保全条例」の実態

昨年11月に「京町家保全条例」が施行されました。「京町家を保全および将来世代に継承する」という条例制定の趣旨には賛同しているものの、この条例が特に、上京区に住むみなさまにとって過度な規制に繋がるということはあまり知られていません。

京町家として認定する4万戸のうち、上京区には8521軒がその対象とされています。これは上京区にある戸建ての2軒に1軒が規制対象の京町家であるということです。今後、重要京町家（京都市が特に重要と位置付ける京町家）については解体時に市に届出をすることが義務となりました。それ以外の京町家についても努力義務が課せられています。つまり、一度指定を受けた家は好きな時に除却ができにくくなるということです。

しかも、どの家が対象の京町家であるかという周知についても「対象住戸には戸別訪問もしくは周知チラシのポスティングをしている」といった具合で、「自分の家が対象住戸かどうかわからぬい」というお声もたくさん頂戴しています。規制の枠を広げるということは京町家に住む市民と行政の双方にとって好ましいことではありません。京都市の厳しい財政状況もふまえ、4万軒もの京町家を今後管理していくことが妥当かどうか今一度考え直すべきだと指摘しました。

### 京都市は防災よりも 町並み保全？

大阪北部地震では、京都市内の被害は大きくなかったことが不幸中の幸いでした。しかし、この地震を教訓に防災対策の再点検が必要です。

京都市は、防災よりも町並み保全を優先している傾向がありますが、今こそその姿勢が正しいのか見直しが必要です。なぜなら、京都市内には細街路も再建不可物件も点在しているため、誰も口にはしませんが、京都で大型の地震が起きた場合、他都市よりも死傷者が出るのは公然の事実です。

### 市民の命と財産を守る 防災対策の再点検を！

町並みの保全・京町家の保全も京都に必要なものですが、何より重要なのは「人命と財産を守ること」です。今こそ、町並み保全から人命優先にシフトすべきです。



# トピックモリモリ上京区

TOPIC  
02

## 住宅用火災警報器の点検を

今年の夏は気温

37度以上が続き、「猛暑」を超える「酷暑」となりましたが、それよりも深刻なのは7月中に上京区内で4件火災が発生したということです。

このことを受け、上京消防署と上京消防団では5日・20日の無火災推進日以外での火の用心の広報や、独居の高齢者をお訪ねして防火啓発を行っています。

京都市では平成23年6月から設置が義務付けられた住宅用火災警報器ですが、早いものだと寿命を迎えるものが出でています。本体寿命は約10年(早いもので5年)ですので、この機会に、自宅に設置されている警報器が正常に作動するかをご確認いただき、防火に努めていただきたく存じます。



TOPIC  
03

## 上京中に森・森・森! ポスター掲示のお願い

ご自宅の外壁、ガレージ、倉庫など掲示可能な場所がありましたら是非、事務所にご連絡ください。通りに面している場所はもちろん、路地裏であっても掲示できるスペースがあれば大歓迎です。ご協力よろしくお願ひいたします!



## 暮らしのあれこれ! 市政相談はお気軽に

市政についてのお問い合わせ・ご相談、行政についての要望や、日頃お困りのことなど、なんでもお気軽に寄せください。右記の事務所にて受け付けております。お電話・FAX・メールもご利用ください。

日々の出会いとふれあいから  
森かれんが想したこと

かれん  
スタイルその2

## 出産議員 ネットワーク

戦後73年の間で、議員任期中に出産経験がある人は延べ130人だと言われています。私もその130人の1人です。長い間、出産経験があつてもその議会の中で「特別な例」として扱われており、そのことが全国で共有されることはありませんでした。

今年の2月に豊島区議会議員の永野裕子さんを先頭に「出産議員ネットワーク」が立ち上げられ、出産・育児の当事者たちが集まって、知恵や政策が共有できる組織ができました。私自身、「これから議員になりたいという人たちが安心して出産・育児ができる社会にしたい」という想いを持っており、これからは個人の活動にプラスして、全国の出産議員とつながりを持って新たな政策を打ち出していく所存です。

少子化や女性活躍の課題があるなかで、意思決定の場に出産や育児をする世代の議員が増えることが大事です。そのためには待機児童対策や病児保育の拡充など解決すべき課題はたくさんありますが、一つ一つその課題と向き合ってまいります。



京都市会議員  
**森かれん** 事務所

TEL: 0602-8384 京都市上京区紙屋川町1038-22  
TEL: 075-366-6341 FAX: 075-366-6342  
<http://www.morikaren.com>

